

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年10月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890300056		
法人名	学校法人 沼田学園		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 土浦の里	ユニット名	—
所在地	〒300-0043 茨城県土浦市中央2-6-27		
自己評価作成日	平成25年5月22日	評価結果 市町村受理日	平成25年10月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kani=true&JigyosyoCd=0890300056-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年7月22日	評価確定日	平成25年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人ひとりの声に耳を傾け、喜びや不安を受け止めてその人らしく生き生きとした生活が送れるように、また、利用者様の持てる力を発揮でき、住み慣れた地域でいつまでも暮らす事ができる支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は利用者一人ひとりに寄り添い、住み慣れた地域でいつまでも暮らすことができるよう支援に努めている。
管理者は職員と日頃から何でも話せる人間関係を築くなど、風通しの良い働きやすい職場の環境づくりに努めている。
職員は小規模多機能型居宅介護事業所の特徴を活かし、通いサービスの送迎時や訪問サービスなどで利用者や家族等と密に係わり、信頼関係を築いている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を共有し、利用者様の気持ちに寄り添うケアの提供に努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、誰もが目にすることができる居間兼食堂に掲示している。 理念は職員が日々各自で確認するほか、月1回開催する職員会議で再確認し、共通認識のもとで実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通所サービス送迎の際には近隣住民への挨拶を心がけています。また、行事等への参加の声をかけを行い、交流ができるように心がけています。	自治会には加入していないが、自治会主催の祭りに利用者と職員と一緒に参加している。 職員は利用者の送迎時に近隣住民への挨拶を心がけている。 事業所で開催するクリスマス会などの行事に保育所や幼稚園の園児が来訪して遊戯を披露したり、利用者とふれ合ったりしているほか、地域住民を招待して利用者が地域の人々と交流ができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会等へ声をかけ、気軽に見学をしていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開所したばかりですが、利用の状況報告を行い、意見交換等で業務改善に取り組んでいます。	平成24年9月に開設した事業所で、翌年の6月に利用者や家族等、市職員、区長、民生委員で第1回目の運営推進会議を開催しているが、開設後間もなかったため利用者が少ないとの理由で、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。 会議では事業所の活動報告をしたり、行事予定や運営状況を説明したりしているほか、出席者と意見交換を行い、出た意見等を月1回開催する職員会議で検討し、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口、地域包括支援センター、在宅介護支援センターへ出向いたり、電話で相談させていただいています。	介護支援専門員は積極的に市担当課や地域包括支援センター、在宅介護支援センターへ足を運んで助言を得たり、情報交換を行ったりしている。 管理者は日頃から市担当者に事業所の実情を電話で報告し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を理解し身体拘束をしないケアを心掛けています。館内の庭には自由に出入りできるようにしています。庭に出る際には危険のないよう見守りしています。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、管理者は職員会議などで身体拘束の具体的な行為と弊害について、職員に口頭で説明している。 職員は玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めているが、身体拘束排除に向けた研修を受講するまでには至っておらず、全職員が理解するまでには至っていない。	管理者は身体拘束排除マニュアルを基に研修を実施し、全職員に身体拘束排除に向けたケアへの認識を図ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にアザ等を見つけた際には利用者家族、職員でその都度確認し合うようにしています。職員の言葉掛け等にもお互いに留意し虐待が見過ごされる事がないように注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで特に学ぶ機会はありませんでしたが、制度については知っています。必要時には地域包括支援センターや社会福祉協議会等へ相談させていただきたいと思っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書・重要事項説明書・個人情報の取り扱い等についてしっかりと説明させていただき十分に理解、納得をしていただけるよう配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様より、意見や要望をいただいたときには真摯に受け止め、すぐに話し合いを行い検討し、改善できるものについては即時改善を行っています。 ご意見箱の設置、連絡帳に記入してもらっています。	送迎時や自宅訪問時に利用者や家族等の話を聴いたり、家族等が意見を記入できる「サービス提供記録」を活用したりして、意見や要望の把握に努めている。 「できることをやらせてほしい」との家族等からの意見を受け、雑巾縫いやチラシで作るごみ箱づくり、ぬり絵などを取り入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや月1回の職員会議で職員の意見を話し合い、運営に反映させています。	管理者は朝のミーティングや月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けるとともに、マッサージチェアやよしずの購入、勤務体制の変更など、職員から出た意見等を検討して運営に反映させている。 管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を出し易い雰囲気づくりに努めており、小さい子どもがいる職員は日勤のみの勤務にするなど、職員一人ひとりの事情を汲み入れながら働き易い職場の環境づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや職員会議で職員からの要望や意見などを話し合い、職員一人ひとりが向上心を持って働けるよう配慮しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年3回以上の内部研修を計画しています。また、必要な外部研修へ積極的に参加し、スキルアップできるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の地域の小規模多機能型居宅介護施設に電話をかけさせていただいたり、見学させていただき情報を交換しサービスの質の向上に努めるようにしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談を受けた段階から、本人及び家族と十分な話し合いをし、不安や心配を取り除くことができるよう努めています。また、お話ししやすい環境作り等に職員全員で配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話し合いを行い、不安に思うこと等を軽減できるよう家族の思いを十分にお聞きするよううに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントを行い本人家族との話し合いの中で最も必要としているサービスを見極め提案し、必要である場合は小規模多機能居宅介護以外のサービスを適時提案させていただき検討していくようつと努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がどのような生活を送りどのようなケアを望んでいるのか把握し、できることは一緒に行い、又協力をいただきながら良い関係を築いていけるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし近況報告を行い安心していただけるようにしています。また、必要に応じて家族の協力をお願いし共に本人を支えていけるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から馴染みの人や場所を聞き取り、その関係が途切れないように必要時には一緒に行動したり、電話連絡等の支援を行っています。	職員はアセスメントシートを活用したり、利用者や家族等の話から利用者のこれまでの生活歴のほか、馴染みの人や場所を把握している。職員は送迎時に利用者の馴染みの場所に同行したり、馴染みの場所にお花見を兼ねてドライブに出かけたりできるよう支援している。家族等や友人など馴染みの人への電話の取次ぎをするなど、今までの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や健康状態を把握し、利用者同士のトラブルが発生しないように配慮しています。また、利用者同士の会話に入り孤立しがちな方に対して、話を促す等配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところありませんが、今後いつでも対応できるよう柔軟な体制作りを行っていきたいと思います。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日常の関わりの中でコミュニケーションをとりながら、本人の希望や意向を把握できるように努めています。常に利用者の立場に立ちどのようなケアを必要としているのか考え接しています。	職員は利用者との日常の係わりの中で、コミュニケーションを図りながら利用者の希望や意向を把握するとともに、送迎時などで家族等から話を聞いて情報を得ている。意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中で、表情や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメントや定期の訪問等の関わりの中で本人や家族から情報収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、その人にあった過ごし方ができるように配慮」しています。心身の状態や様子などを記録し、職員がその情報を共有し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態や生活状況に変化が生じた時、必要時に応じてサービス担当者会議やカンファレンスを行い、モニタリングや介護計画を作成し現状に合ったケアの提供に取り組んでいます。	介護計画は介護支援専門員がサービス担当者会議を開催して利用者や家族等の希望のほか、主治医や看護職員、職員の意見をまとめて作成し、6ヶ月毎に見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度見直している。居宅サービス計画は作成しているが、小規模多機能型居宅介護計画を作成するまでには至っていない。月1回モニタリングを行い、結果を記録している。	居宅サービス計画のほかに小規模多機能型居宅介護計画を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援経過記録に生活の様子や体調の変化等を記録しています。又、職員間の申し送りノートで情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な宿泊や通所希望等、利用の変更にも可能な限り対応しています。その時々々のニーズに対応し柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	困りごとや不明な点は、市や地域包括センターや在宅介護支援センターに相談をし指導を受け、必要な地域資源を把握し利用させてもらうようにしています。近隣の方や民生委員とも連絡を取り、地域の中で安心して暮らせるような環境作りに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院をかかりつけ医としていますが、希望に応じて家族の協力を得て、他の病院の受診の支援をしています。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医への受診は原則家族等が付き添うことになっており、職員は利用者の状態を家族等に伝え、適切な受診ができるように支援している。受診結果は家族等から報告を受けるとともに、記録に残して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報を共有し、健康管理やケアについて話し合い相談しています。毎日のミーティングで状態を把握し、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に訪れ、また、家族との連絡をとりあい安心していただけるようにします。また、病院の担当者と連絡をとり情報交換を行うように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていませんが、家族との連絡を密にし、家族の思いや要望にできるだけ添うことができるように努めます。	契約時に利用者や家族等に看取りはしない方針であることを説明している。利用者が重度化した場合は入院や他の施設への入居について家族等と話し合い、対応している。 昨年9月に開設した事業所で、これまでは看取りはしない方針だったが、管理者や職員で事業所でできることとできないことを話し合ったり、重度化や終末期に向けた今後の対応方針を話し合ったりしている段階である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度の施設内研修で救命講習(AED・救命処置)を受ける予定です。救急マニュアルは作成しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練はまだ行っていませんが、計画は立てており早急におこないます。災害に備え、食材等を備蓄するよう努めています	昨年9月開設以降避難訓練を1回実施しているが、年2回以上実施するまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合っており、今後の訓練に活かすことになっている。 避難訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害時に備えて米は備蓄しているが、米以外の非常食や飲料水などを備蓄するまでには至っていない。	避難訓練を年2回以上実施するとともに、開設して間もない事業所のため、消防署立会いの避難訓練を実施して助言を得ることを期待する。 避難訓練に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議などを通して働きかけることを期待する。 災害時に備えて米以外にも非常食や飲料水などを備蓄することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を傷つけることのないように言動や介助に気をつけています。職員間でも常に確認し合い、お互いに注意しています。個人情報については施錠できる書棚に保管しています。	職員は排泄介助や入浴介助時には小声で声かけをして気配りをしながら誘導をするなど、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。 個人情報に関する書類は事務所の施錠ができる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の言葉や行動を注意深く観察し、本人の思いや希望を受け止め自己決定できるように言葉掛けに注意し、自己決定できるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活のペースを把握した上で、その日の過ごし方を聞き取りその人らしい満足した生活を送ることができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性や希望に合わせてとともに清潔な身だしなみで過ごすことができるように支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の好みを把握し主食はできるだけ要望に添えるように努めています。食前の口腔体操や、食事の盛り付けにも気をつけています。職員も見守りをしながら一緒に食べ楽しい雰囲気作りを心がけています。準備や片付けも声かけをして、できるだけ一緒に行うようにしています。	宅配業者が作成した献立となっており、届いた食材を事業所の台所で調理している。利用者と職員は同じ食卓を囲みながら温かい食事を摂っている。利用者は米研ぎや盛り付け、配膳、後片付けなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。利用者の要望でファミリーレストランなどへの外食を取り入れ、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量を記録し把握しています。状況に応じて代替食も用意して提供し、また、軟食、粥食なども提供しています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っていただけるように声がけし不十分な部分は磨き直しをしています。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを排泄チェック表で把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援しています。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導をし、トイレで排泄ができるように支援している。夜間はおむつを使用している利用者でも日中はリハビリパンツを使用し、職員による声かけや誘導によりトイレで排泄ができるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄をチェックすると共に、水分の摂取量や食材に気をつけ、軽体操で体を動かすようにしています。また、家族と連絡をとりあい服薬状況も確認しています。個々の状況に応じ対応しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間、曜日は利用者に応じて決めています。その都度の本人の希望を取り入れて入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。個浴にてゆっくりと入浴していただいています。	毎日入浴ができる体制になっており、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴ができるよう支援している。柚子湯や菖蒲湯を取り入れたり、入浴剤を使用したりして入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には強要せず、タイミングを見計らって再度誘ったり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて宿泊室にて休んでいただいています。また、和室も利用し休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の写しを家族よりいただき、一人ひとりの薬の目的や副作用、用量、用法について職員全員が把握しています。誤薬、飲み忘れのないよう十分に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、その都度できることの役割を持っていただいています。季節の行事、同法人幼稚園児の慰問、ドライブ等を取り入れ楽しみ、気分転換等をしていただけるよう支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物等利用者の状況や天気に応じて外出しています。	天気の良い日には事業所周辺を散歩して五感を刺激したり、四季の移り変わりを楽しめるよう支援したりしている。 事業所の車両を利用して花見や牛久大仏、水郷公園に出かけ、気分転換ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない方には家族の了解のもと支援しています。また、本人の能力や希望に応じて、家族と相談しながらお金を所持したり、使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかけたり、取次ぎ等の対応をしています。また、手紙のやり取りも自由にできるよう援助しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの配置、壁や窓ガラスへの装飾を工夫し快適に過ごしていただけるよう努めています。また、季節感を取り入れ室温や音にも留意し居心地の良い環境作りを工夫しています。	広々とした居間兼食堂の一角には畳のスペースが設置されており、そこにマッサージチェアを配置して寛げる空間づくりをしている。 居間の窓によしずを設置し、日差しを遮ったり、季節感を演出したりしている。 明るい廊下は車いす同士でもすれ違える広さがあり、利用者の歩行訓練にも活用している。 トイレは車いすでも対応ができる十分な広さとなっており、高めの便座を設置して車いすからスムーズに移乗ができるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの配置、和室や宿泊用個室などをその時の気分に応じて自由に利用できるよう対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊用個室は、できるだけ前回と同じ部屋を提供するようにしています。また、馴染みの物を自由に持って来ていただいています。	利用者は泊まる際に馴染みの家具や使い慣れた物品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 泊まりの部屋は、できるだけ前回と同じ部屋を利用することができるよう配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや福祉用具等を利用し、本人の能力に応じた生活ができるよう支援しています。必要に応じて目印などの設置もしています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護 土浦の里

作成日 平成25年10月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を2ヶ月に1回開催すること	<ul style="list-style-type: none">・H25年6月26日 会議済み・H25年8月21日 会議済み・H25年10月23日 会議予定	2ヶ月ごとに開催する	実行中
2	6	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、施設内で職員の研修を行っていない	全職員が身体拘束の身体的な行為と弊害について正しく理解できる	年に1回身体拘束排除マニュアルに基づいて全職員対象の内部研修を実施する	6ヶ月
3	35	<ul style="list-style-type: none">・消防署立会いの避難訓練を実施する・避難訓練に地域住民の協力を得られるようにする・災害時に備えて米以外の非常食や飲料水等を備蓄する	<ul style="list-style-type: none">・年2回以上避難訓練を実施する・地域住民の協力が得られるように運営推進会議などを通して働きかける・長期保存できる非常食や飲料水などを備蓄する	<ul style="list-style-type: none">・消防署立会いのもと避難訓練を実施する・運営推進会議のときに区長さんや民生委員さんに声掛けし協力を得られるように努める・保管場所を設け備蓄品を用意しリスト表を作成し管理する	3ヶ月～6ヶ月
4	26	居宅サービス計画の他に小規模多機能型居宅介護計画を作成する	小規模多機能型居宅介護計画を作成する	居宅サービス計画作成時は小規模多機能型居宅介護計画を作成する	実行中
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。